

会 議 録

会議名	令和5年度 第3回丸亀市行政評価委員会
開催日時	令和5年7月26日(水) 10:00~11:55
開催場所	丸亀市役所4階特別会議室
出席者	<p>出席委員 岩倉洋平、鹿子嶋仁、佐藤友光子、高濱和則、嵯峨根真千子、松村昌子</p> <p>欠席委員 なし</p> <p>事務局 市長公室長 栗山佳子 (市長公室秘書政策課) 課長 真鍋裕章、主任 横井俊介、主任 大川智</p>
議 題	<p>1. 事業評価について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>ただ今より、第3回丸亀市行政評価委員会を開会いたします。議事に入ります前に、本日の会議資料を確認します。</p> <p>なお、本日の会議は、議事録作成支援システムを使用し会議を記録しますので、恐れ入りますが、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用しご発言ください。以後の議事につきましては、会長に議長をお願いします。</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは、議事に入る前に、現在6名の委員のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき会議が有効に成立しておりますことをご報告させていただきます。事業評価の方法などについて確認しておきたいと思っておりますので、事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<p><資料に基づき説明></p>
鹿子嶋会長	<p>それでは、「①教職員の働き方改革の推進(学校教育課)」から行います。</p>
岩倉委員	<p>文部科学省において教育の質の向上に注力している今、教職員を増員し一人ひとりの負担軽減を図ることや、新しい情報分野に対応しなければならないことを踏まえ、事業の方向性を拡充としました。</p>
高濱副会長	<p>働き方改革については、社会全体でどうすべきか議論がなされていますが、教職員の場合は、目標が明確に立てられ取り組まれていると理解しています。こうした中、教職員を目指す大学生については、教職のカリキュラムに情報分野が加わっているため大きな心配はありませんが、すでに現場で働いている情報分野に不得手な教職員への支援が必要と考えています。まずは、管理職がICTを活用することの重要性を理</p>

	<p>解するとともに、不得手な教職員が取り残されないよう人員の確保や個別指導の充実を図っていただきたいと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>I C Tの導入により、紙媒体による資料の印刷や配布といった業務負担が削減されるほか、学生にとってはいつでも資料を確認できるメリットがある一方で、I C Tの導入が教育の質の向上に直結するかは、議論の必要があると考えています。</p> <p>いずれにしても、教職員間における習熟度の格差を埋めるために、サポート体制の充実が必要だと思っています。</p>
高濱副会長	<p>教職員が本質的な業務以外に、多大な時間を取られていることが問題です。教職員でなくてもできる業務はA Iに任せ、本質的な業務に取り組む時間を確保できるよう進めていただきたいと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>事務作業が教職員の負担になっていることを踏まえ、事務組織を強化していく必要がある一方で、文部科学省が推進している共同学校事務室については、事務能力の向上につながるのか、または、事務員の人件費の削減のみに留まるのか、現時点においてその効果が目に見えていないので、現場の声を十分に聞いて進めていただきたいと思います。</p>
岩倉委員	<p>教職員が教育の本質について考える時間が必要です。本質的な業務以外を効率化し、考える時間を確保すべきだと思います。</p>
嵯峨根委員	<p>現在、不登校児童・生徒が増加傾向にあります。オンライン授業の出欠の取り扱いは、教育委員会ではなく校長の裁量で決まっています。不登校児童・生徒の中には、学校には行きたくないけど勉強はしたい、高校には進学したいと考えている子どももいるはずなので、管理職である校長のオンライン授業への理解を深めていただきたいと思います。</p>
岩倉委員	<p>教職員に余裕がないことには、新しい取組や業務の改善を考えることは難しいと思いますので、本事業は重要度が高いと改めて思いました。</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは、他に意見もないようですので、採決に入ります。</p> <p><必要性:妥当6・改善0、効率性:妥当6・改善0、有効性:妥当5・改善1> <事業の方向性:維持6></p> <p>本事業については、「維持」という結果になりました。</p> <p>次に、「②スマートモビリティの推進（都市計画課）」にうつります。</p>
高濱副会長	<p>コミュニティバスを運行するにあたり、通勤・通学、買い物、観光などの各ターゲットに対し、どうアプローチしていくかが重要です。例えば学生に対しては、このバスに乗れば始業までに学校に到着するといったアプローチになります。現時点におい</p>

	<p>でも上手に運行していると思いますが、多様なターゲット層に対し、きめ細かなアプローチをしていくとともに、その結果を常にフィードバックしながら目的と手段が一致した運行を心掛けていただきたいと思います。</p> <p>また、丸亀市から近隣市町に行き来ができる交通結節点、つまり公共交通の起点づくりも重要と考えています。中讃地域といった大きな構想の中で、首長同士が話し合い、一か所ずつ着実に取り組んでいただきたいと思います。</p>
嵯峨根委員	<p>丸亀市に来る観光客の特徴として、宿泊せず通過してしまう傾向があります。公共交通の起点をつくり、観光客に交通の便の良さをPRすることで宿泊につながると思っています。</p>
松村委員	<p>ニーズに合わせ、効率的にコミュニティバスを運行することで、一定数の利用者は見込めると思います。学校によって下校時間が違うなど、難しい部分もあるかと思いますが、目的と手段が一致するようダイヤの改善をお願いします。</p> <p>また、高齢者が中心になるかと思いますが、自家用車を運転している方にとっては、公共交通機関を使うイメージがわからないと思います。そこで、公共交通のインフラ整備と並行し、公共交通機関を利用した生活をイメージしていただけるような啓発活動にも取り組んでいただきたいと思います。</p>
鹿子嶋会長	<p>高齢化社会が進んでいく中、現在の体制で十分に対応できるか問われると不安が残ります。高齢者の日常の買い物や通院など様々な用事において、交通手段を確保していかなければならないことを踏まえると、本事業の重要性は増すと想定されます。</p> <p>そのため、ダイヤの改正や交通結節点の設置、デマンドタクシーなど、今後の社会変化に対応するために事業を拡充する必要があるのではないかと感じています。</p>
佐藤委員	<p>中讃定住自立圏域でバスを運行するシステムの構築については、以前から議論がなされており、少しずつ前に進んでいる気配は感じていますが、どの程度まで進んでいるのか気になるところです。</p>
鹿子嶋会長	<p>中讃定住自立圏域での取組は、引き続き進めていただきたいと思います。</p> <p>それでは、他に意見もないようですので、採決に入ります。</p> <p><必要性:妥当6・改善0、効率性:妥当5・改善1、有効性:妥当1・改善5></p> <p><事業の方向性:拡充3、維持1、改善2></p> <p>本事業については、「拡充」という結果になりました。</p> <p>次に、「③地場・伝統産業の振興（産業観光課）」にうつります。</p>
高濱副会長	<p>地場・伝統産業の丸亀うちわを、今後どうしていきたいのか出口戦略が見えてきません。プラスチックうちわも良いですが、やはり竹うちわにこだわる必要があると思う一方で、竹うちわの職人をいくら養成しても、竹うちわの製作だけで、生計を立てられない現状が続く限り、発展することは難しいとも考えています。</p>

	<p>また、同じ伝統工芸品である香川漆器については、高松工芸高校で香川漆芸PRプロジェクトを進めるなど、大きな地場・伝統産業として位置付けができていますので、竹うちわについても、竹の製作技術を使って幅広く展開することが可能ではないかと思っています。</p> <p>いずれにしても、地場・伝統産業である丸亀うちわを今後どうしていきたいのか、市民の協力も仰げるようもう少し分かりやすく示していただきたいと思います。</p>
佐藤委員	<p>竹にこだわり展開していくことは、製作技術の転用を考えているということでしょうか。</p>
高濱副会長	<p>はい。竹うちわそのものを販売していくのが一番良いですが、これまでの実績を踏まえると少し行き詰っていると考えています。</p>
佐藤委員	<p>技術を転用するためには、ある程度のアイデアが必要と考えています。アイデアを出すだけであれば、当面の予算はそんなに必要ではなく、実際に展開する段階において予算を投入すれば良いと思います。</p>
岩倉委員	<p>本事業は、外部連携などを含め改善の余地があると思います。うちわのデザインを考えていくよりは、文化庁といった国からの補助金を確保するために、地場・伝統産業をどうしたいか今後の方向性をしっかり固め、説明できるようにすることが重要だと考えています。</p> <p>現在、厚生労働省のものづくりマイスター制度と連携できていないので、まずはそこから取り組んでいただくことを踏まえると、事業の方向性は、予算維持、効果拡大の改善になると考えています。</p>
鹿子嶋会長	<p>前回のヒアリングにおいて、担当課から地場・伝統産業の竹うちわの後継者が育たないことやニュー・マイスター制度もあまり上手くいっていないことを踏まえると、現状の手法には課題があると推測されますので、改善の必要があると考えています。</p>
嵯峨根委員	<p>前回の担当課ヒアリングでは、竹うちわに限定するのではなく、プラスチックを含めた丸亀うちわにこだわっている印象を受けました。うちわは扇子と比較されがちですが、扇子は折りたたんで持ち運び安い利点があるほか、京都のイメージが強く外国人から認知されやすい商品だと思っています。</p> <p>ヨーロッパはクーラーの普及率が低く、うちわは生活に非常に役立つのではないかと思いますので、現地の外国人からアイデアをいただき、扇子とうちわの差別化を図るなど、コストは維持のまま、違う視点で事業を進めていけば良いと考えました。</p>
岩倉委員	<p>うちわのプロダクトデザインを、ターゲットとコンセプトを設定し考えていくことで市場が広がっていくと思います。後継者の育成と、後継者が生計を立てていくためのマーケット開拓、両方のバランスを取って進めていく必要があると考えています。</p>

高濱副会長	SDGsの進展により、販促のプラスチックうちわが今後使いにくくなると思います。こうした社会情勢の変化は、竹うちわの強みにつながってくると考えています。
松村委員	お茶席には扇子が必須であるように、うちわが必須となる機会を新たに作ることで、一定の需要が生まれるのではないかと思います。
鹿子嶋会長	<p>それでは、他に意見もないようですので、採決に入ります。</p> <p><必要性:妥当5・改善1、効率性:妥当0・改善6、有効性:妥当0・改善6></p> <p><事業の方向性:改善6></p> <p>本事業については、「改善」という結果になりました。</p> <p>次に、「④糖尿病等予防対策の推進（健康課、保険課）」にうつります。</p>
高濱副会長	目標と現状値が乖離していますので、違う指標で目標管理するなど違う視点で取り組むべきではないかと思いました。個人情報保護の観点から勧奨しにくい側面もありますが、健康診断の受診率向上に努めています。どうすれば受診率が向上するのか、効果的な手法があればぜひ教えていただきたいです。
鹿子嶋会長	特定健診の受診率については、改善傾向にはありますが、伸び率はゆるやかになっています。この現状は、国全体におけるシステムが根本的に変わらない限り難しい部分もあると思いますので、個人情報保護に留意しながら現状の方向性で粘り強く進めていくしかないのではと思います。
岩倉委員	健康の基本は、食事と運動だと思いますが、食事は香川県のうどん文化により改善が少し難しいことを考えると、運動が重要になります。運動をしていただくためには、動機付けが非常に大切で、例えばポケモンマンホール（ポケふた）を見るためにウォーキングをするといった取組が効果的です。各世代にターゲットを絞った運動の動機付けを意識し取り組んでいただきたいと思います。
松村委員	<p>歩かないといけないといったネガティブな呼びかけではなく、ポケふたのようなポジティブな呼びかけが有効ではないかと思います。</p> <p>また、高齢者に向けた呼びかけとしては、糖尿病を切り口にするのではなく、認知症予防のために運動しましょうと呼びかけた方が、自分ごとのように感じるのではないのでしょうか。認知症予防には運動が効果的と言われ始めており、認知症予防の運動が糖尿病予防、ひいては末永い自立した生活につながっていくと思います。</p>
高濱副会長	健康増進のための手段の一つとして、従業員にスマートウォッチを配布するなど、ツールを活用することで、自分の健康を自分で守る意識付けにつながっていくのではないかと考えています。
嵯峨根委員	東京においては、寄附金集めを目的としたウォーキングイベントがあります。自分

	<p>が参加費を払いイベントに参加すると、健康増進が図られるとともに、参加費がボランティア団体等に寄附され社会貢献につながる経験をすることができます。イベント等に付加価値をつける取組も有効ではないでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは、他に意見もないようですので、採決に入ります。</p> <p><必要性:妥当6・改善0、効率性:妥当6・改善0、有効性:妥当1・改善5></p> <p><事業の方向性:維持5、改善1></p> <p>本事業については、「維持」という結果になりました。</p> <p>次に、「⑤瀬戸内国際芸術祭との連携（文化課）」にうつります。</p>
松村委員	<p>他の委員が維持にしているのに対し、拡充と評価しました。その理由としては、開催年度と非開催年度の格差が大きいことが課題とされていたので、瀬戸内国際芸術祭の非開催年度においても、瀬戸内エリアの強みを活かし、国内外からの観光客誘致に向けた事業など、積極的に進める姿勢が必要ではないかと思い拡充としました。</p>
鹿子嶋会長	<p>ヒアリングの際、近隣市町からの来場者数は把握できていないと回答がありましたが、実際のところあまり多くの方が来場していないのではないかと考えています。こうした状況を踏まえ、近隣住民向けのイベントを非開催年度に実施する手法も良いのではないかと考えています。</p>
岩倉委員	<p>本島において、非開催年度にどういったコンテンツを推していくのか明確にすること、丸亀城から丸亀港、そして島へ誘導する動線を確立することの2点が重要と思っています。</p>
嵯峨根委員	<p>近隣住民に瀬戸内国際芸術祭に来場していただくためには、まず芸術に関心を持っていただく必要があります。そのため、非開催年度に、猪熊弦一郎現代美術館の活用など、芸術に対する理解を深める機会を設け、関心を高めることが来場につながると思っています。</p> <p>一方で、芸術祭の期間中に実施した、すごろくプロジェクトのように大成功を収めたイベントについては、続けていく必要があると考えており、芸術祭ごとに新しいコンテンツを求めていくだけでは、文化芸術の定着につながらないのではと懸念しています。現状のコストを維持したまま、重点事業を再選定していただきたいと思っています。</p>
佐藤委員	<p>瀬戸内国際芸術祭の目的の一つとして、島の活性化があると思いますが、当然、オーバーツーリズムといった切り離せない問題が出てくると思います。島民の生活に支障がでないようバランスを保ちながら進める必要があります。観光客を増やせば成功とするのは違うと思います。こうした現状を踏まえ、まずは芸術祭の非開催年度に、島の活性化につながるイベントの開催などを考えてみたらどうかと思っています。</p>
岩倉委員	<p>瀬戸内国際芸術祭の様々な取組を進めていくことで、島民のシビックプライドの醸</p>

	<p>成につながっていくのではないかと考えています。</p> <p>また、丸亀市には猪熊弦一郎現代美術館という文化芸術の象徴があるなど素材はそろっており、定期的に来られている方の属性を把握することで、事業の改善点が見えてくるのではないかと考えています。</p>
鹿子嶋会長	<p>非開催年度の話が出ていますが、開催年度に来られている大勢の方に対し、島だけではなく、丸亀城をはじめとする陸地部の周遊もしていただけるよう取り組んでいきたいと思います。</p>
高濱副会長	<p>瀬戸内国際芸術祭の開催年度と非開催年度のギャップが大きすぎると思います。非開催年度にどのくらいの方が来島すると事業として成り立つのか、また、成り立たせるためにはどの程度の受入体制が必要なかを改めて考えると、芸術祭の作品を含めて何もない、飲食店も常に空いていない現状では受け入れも難しいと考えています。非開催年度にどうするかを考えるよりも、開催年度にどうするかを考えるのが正常ではないでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	<p>非開催年度に集客することは、無理に瀬戸内国際芸術祭につなげる必要はない気がします。やはり芸術祭の開催年度に陸地部の周遊を含め、どのように運用していくかが重要で、非開催年度のイベントについては、事業の性質上切り分けて考える方が良いかもしれません。</p>
嵯峨根委員	<p>瀬戸内国際芸術祭にあまり行っていないと思われる近隣住民に対し、芸術祭へ行っていただくための取組を非開催年度にすれば良いのではないかと考えています。</p>
鹿子嶋会長	<p>それでは、他に意見もないようですので、採決に入ります。</p> <p><必要性:妥当6・改善0、効率性:妥当6・改善0、有効性:妥当2・改善4></p> <p><事業の方向性:維持5、改善1></p> <p>本事業については、「維持」という結果になりました。以上で、全ての事業についての評価が終わりました。</p>
大川	<p><今後の予定、手続きについて説明></p>
鹿子嶋会長	<p>それでは今後の予定ですが、まず、事務局より報告書(案)を送りますので、ご意見等があれば報告していただき、最終私の方で確認して決定するという流れで進めていきます。市長への報告書提出は、委員のみなさんになるべく参加できる日程を調整したいと思います。</p> <p>それでは、以上で本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>